

## J R連合 N EWS

JRに集う すべての仲間の JR連合への 総結集を!!

2020 年度

No. 8

2020年7月13日

日本鉄道労働組合連合会

J R四国労組第39回定期大会

## 難局乗り越えるべくJR四国労組運動の進化を

JR四国労組は、7月10日、香川県宇多津町において、第39回定期大会を開催した。開催に当たっては新型コロナウイルス感染症対策を入念に施しながら、四国各地から代議員、特別代議員の約100人が参集し、スローガンに「団結創造 進化」を掲げ、2020年度の運動方針を決定した。JR連合からは荻山会長と中村部長が出席し、連合香川の森会長、四国交運労協の井上議長、JR四国の西牧社長らが来賓として駆けつけた。



冒頭、執行部を代表して大谷執行委員長(JR連合副会長)は挨拶に立ち、新型コロナウイルス感染症の拡大によって、「JR四国グループの経営状況はかつてないほど厳しい状況に陥り、初めて『一時帰休』の協定を締結し、雇用を第一義にさまざまな対応が迫られた」とこれまでの対応を振り返りつつ、引き続き感染症リスクからの安全確保と雇用の確保を最優先に取り組む決意を述べた。さらに、「安全・安定・安心輸送の確立」「組織の強化・拡大」「労働環境の改善」の三本柱について所信を示したうえで、「これまで以上に団結を図り、取り巻く環境を冷静に見極め、創造力をフルに発揮し、来たる明るい将来にむけて力強く運動を展開し、『進化』させていこう」と呼びかけた。

来賓挨拶では、JR連合の荻山会長が『JR連合ビジョン』に触れ「新型コロナへの対応をはじめ労働組合の必要性はこれまで以上に高まっている」とし、JR二島・貨物経営自立実現PTの取り組みを通じた経営課題解決にむけても理解と協力を求めた。

議事では、執行部から新年度の運動方針案・予算案を提起。30人の代議員・特別代議員から方針等を補強する発言があり、執行部からの中間答弁および嶋田書記長の総括答弁を経て、すべての議案が満場一致で採択された。

最後に大谷委員長の団結ガンバローで締めくくり、運動の『進化』にむけ始動した。